



THE SERVICE CLUB OF Y.M.C.A. THE Y'S MEN'S CLUB OF KOFU 21

山梨県甲府市中央5丁目4-11
山梨YMCA青少年センター
〒400-0032 TEL 055-235-8543
FAX 055-235-8553

国際会長主題：ともに、光の中を歩もう
アジア太平洋地域会長主題：ワイズ運動を尊重しよう
東日本区理事主題：広げよう ワイズの仲間
あずさ部長主題：継続は力なり・一歩でも前に・そしてあがこう
甲府21クラブ会長主題：実現可能な目標定め 山梨YMCAを支援しよう

Henry Grindheim (ノルウェー)
Tung Ming Hsiao (台湾)
栗本 次郎 (熱海)
大野 貞次 (東京西)
佐藤 重良

甲府21ワイズメンズクラブ
2017年9月会報
強調月間
ユース

今月の聖句

すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。

コリントの信徒への手紙Ⅱ 12章9節 後藤哲夫 選

会長挨拶

甲府21ワイズメンズクラブ会長 佐藤重良



佐藤重良会長

2017年8月27日、当クラブの恒例のブドウ棚の下での納涼例会が実施されました。また、新入会員（米長晴信氏）の入会式も実施されました。あずさ部の大野部長はじめ東京八王子クラブから小口会長、長谷川あや子氏、岡垣修武氏の3名、

東京サンライズクラブから小山憲彦氏、菰淵光彦氏、長津徹氏の3名ほか2名の合計9名に参加いただき、総勢36名でのクラブ活動の意見交換と懇親会を和やかに開催されたことに御礼申し上げます。当日は天候に恵まれ、もう少しで収穫となるブドウ棚の下は、爽やかな風が通り、木漏れ日の中での例会と懇親会となり、美味しい本場のワインもいただきながら大いに会話が弾みました。例会の準備及び進行をCSグループの荻野委員長・EMCグループの廣瀬委員長（次期あずさ部長）が中心となり実施されました。感謝申し上げます。

【甲府21ワイズメンズクラブ2017-2018達成目標値】

- ニコニコ募金：250,000円
- バザー：50,000円
- クリスマス例会（オークション）：50,000円
- ベビーカーコンサート募金：50,000円
- 街頭募金：50,000円
- ファンド：50,000円
- 切手：5,000g
- 会員増員：2名

2017年9月例会プログラム

日時：2017年9月5日（火）午後7時00分～

会場：山梨YMCA青少年センター

司会：小澤公紀メン

- ①開会点鐘 佐藤重良会長
- ②ワイズソング・ワイズの信条
- ③今月の聖句 後藤哲夫メン
- ④会員一言 後藤哲夫メン
- ⑤会長挨拶 佐藤重良会長
- ⑥ゲスト・ビジター紹介 佐藤重良会長
- ⑦ハッピーバースデー
- ⑧ワイズディナー
- ⑨ゲスト卓話
『無料塾「希望」の活動から見てくるこども達の貧困』
無料塾「タダゼミ」講師 深沢 久氏
- ⑩諸報告
- ⑪YMCAの歌
- ⑫閉会点鐘 佐藤重良会長

【9月の誕生者】

【メン】

- 後藤哲夫（9月1日生） 松村禎夫（9月3日生）
- 古屋秀樹（9月11日生） 清藤城宏（9月14日生）
- 小澤智之（9月28日生）

【メネット】

- 駒田元子（9月11日生） 功刀佳津子（9月23日生）

【卓話者プロフィール】



深沢 久氏

山梨県南アルプス市出身。1967年、山梨県の社会科の高校教諭になり、2003年の定年まで県立の5校に勤めた。2010年、甲府市で無料塾を開いた。現在は、甲府・富士吉田・南アルプス・韭崎・長坂で開催している。

2017年8月納涼例会報告

甲府21ワイズメンズクラブ書記 寺田喜長



納涼例会参加者の集合写真
2017年8月27日=甲州市・一古園

今年から変更された一古園会場にて恒例のブドウ棚例会を大野貞次あずさ部長はじめ他クラブからのゲストをお迎えし開催しました。

新メンバー米長晴信氏が力強い入会宣言された入会式が組み込まれた例会では、佐藤重良会長の今年度の主題の推進についての挨拶、大野あずさ部長の会員増強に期待するとの挨拶を頂きました。

そして懇親会へ進み、駒田勝彦メンによる乾杯にて始まり、ゲストはじめ例年通り全員が近況や心境を述べながら歓談、残暑厳しい夏の終わりを楽しく過ごしました。

最後に賑やかに記念撮影をし、閉会となりました。遠方よりお越しいただいたゲストの方に御礼申し上げます。

会場及び開催時間変更にごなるかと懸念しましたが担当委員会が入念に準備をして頂き、大きなトラブルも無く終了できました。感謝です。

日時：2017年8月27日（日）午後2時30分～

会場：一古園 司会：後藤

入会式司会：寺田 懇親会司会：荻野

出席者：相川、荻野、小澤(公)、鎌田、功刀、後藤、駒田、佐藤、清藤、茅野、寺田、野々垣、廣瀬、古屋、松村(禎)、松村(豪) 葉袋、山県、米長

メネット：相川、荻野、駒田、清藤、寺田、野々垣、廣瀬、松村(仁)、葉袋、山県

ゲスト：大野貞次（あずさ部長）、菰淵光彦（あずさ部会員増強事業主査）、長津徹、小山憲彦（東京サンライズ）、小口多津子、長谷川あや子、岡垣修武（東京八王子）、中田久仁（山梨YMCA）、山本俊一

■2017年8月 例会データ(会員数25名)

8月納涼例会出席者	: 19名	出席率: 76%
8月第2例会出席者	: 14名	出席率: 56%
ニコニコ募金(第1例会)	: 16,364円	
ニコニコ募金(第2例会)	: 700円	
ニコニコ募金8月合計	: 17,064円	
ニコニコ募金累計	: 41,274円	

入会のご挨拶

甲府21ワイズメンズクラブ 米長晴信



米長晴信メン

8月27日の納涼例会におきまして、入会をさせていただきました米長晴信です。

私は、フジテレビの報道局に17年間勤め、2000年からの5年間はベルリン支局長を拝命しておりました。

任期中は、EUの東方拡大や「ユーロ」の貨幣統一、9・11の後のアフガン戦争、イラク

戦争、パレスチナなどの戦取材も経験し、ガザ地区や南アフリカの極貧地帯も目の当たりにしてまいりました。

子どもの貧困というフレーズをよく耳にしますが、私の見た貧困とはかけ離れたもので、地域社会や我々のような団体の共助でいくらかでも何とかなるものだと考えています。

そのような中において、子どもの健全な育成を中心とした社会貢献をすべく、まずは皆様が継続的に取り組んでおられるバザーなどのイベントの運営に積極的に参加したいと考えています。

社会貢献を目指す団体として、私はワイズメン以外に、倫理法人会、そしてプラチナギルドの会という団体に所属しています。

前者は自分を磨くことで社会貢献をする、後者は、社会貢献をしている人や団体を応援するシニアの会です。こういった他の団体と連携できる場所はしていければと思います。

また、51歳の私が下から2番目に若いとのことで、若い仲間を増やすべく、まずは私自身がワイズメンの活動をしっかりと学習・実践して身につけたいと思います。

皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



米長晴信メンの入会式の様子
2017年8月27日=甲州市・一古園

フクロウキャンプ支援に参加して

甲府21 ワイズメンズクラブ会長 佐藤重良

2017年8月12日、山梨県北杜市の山梨県立八ヶ岳少年自然の家にて、山梨YMCAのフクロウキャンプ支援（カレーライス作りと食事会の支援）に参加しました。

フクロウキャンプは、障がい児が参加するキャンプで、甲府21クラブはキャンプが子ども達にとって楽しく有意義なものにするため、毎年プログラムの一部を支援しています。カレーライス作りは子ども達と一緒にタマネギの皮むきや、かまどの焚火、飯ごうでのご飯炊き、薪割りなどを皆で力を合わせて行いました。

食事会は、山梨YMCAの露木総主事の指導で食事前に感謝の歌を歌い、出来上がったカレーライスを食べました。子ども達は「おいしい！」と歓声を上げ食べていました。その後、後片付けを全員で行い、記念撮影などをして終了しました。子ども達の歓声と生き生きとした笑顔が見られてよかったです。帰り道の道端には早くもコスモスの花が咲いていたのが印象的でした。



フクロウキャンプの支援の様子

2017年8月12日＝北杜市・山梨県立八ヶ岳少年自然の家

会員ペンリレー 花の歴史(聞きかじり)

甲府21 ワイズメンズクラブ 赤根 学

エジプトでは、紀元前3,000年頃には花を装飾品として使用していました。特に贈り物や自分の身につけるためなどに用いられ、バラ・アネモネ・ポピーなどが使用されていました。

中国では、古くからハーブを薬草としていました。また、花は絵画・彫刻品などの芸術品や工芸品として発展しました。花の「命を粗末にしない考えと、芸術品としての価値」から、花を飾るようになりました。

一方、ギリシャ時代には、花を花瓶に挿すというものではなく、リースやガーランドとして、頭に被せたり首に巻いたり、勝負に勝った者に与えたり、恋人同士が交換し合う物として活用されていました。

イタリアのルネサンス時代になると、フラワーアレンジメントがヨーロッパ中に広まり、芸術や文化、科学や園芸に関心が集まりました。その後、ドライフラワーが流行になり、1900年前後のアールヌーボーという装飾様式が、ヨーロッパからアメリカへと広がりを見せ、アールデコ時代には、日本美術の“生け花”の影響がみられるようになっていきます。

日本では、平安時代には仏教と共に花を供えたり、花を挿す習慣があったようです。生け花の始まりです。生け花の道を追求したものが「華道」と呼ばれ、室町時代の中期に確立されました。

【参考】

桜



桜には穀物の神様が宿ると云われ、古来より農業開始の指標とされるなど、農業に大切なものでした。

『万葉集』にもその名が登場し、平安時代には「花」と言えば桜を指すほど人気がありました。

百合



日本国内に15種類の固有種が自生しており、『古事記』にも「神武天皇が百合の花を摘んでいる娘に惚れて嫁にした」という記述があります。

花を観賞目的に栽培されるようになったのは江戸時代で、元々は食用や薬用として主に利用されていました。

故・中島竹男さん記念会

甲府21 ワイズメンズクラブ副会長 野々垣健五

2017年8月7日、台風5号の影響により数名の方がやむを得ず欠席となりましたが、足元の悪い中、35名が故・中島竹男さん、中島家を想って集まってくれました。

寺島昭二先生の奨励、後藤メンの司会、五味さんの奏楽など。記念会は深い思い出を刻むものとなり、「甲府21 ワイズメンズクラブ」を支え続けてくれた故・中島竹男さんに「永遠に栄えあれ」と皆で祈る事が出来ました。

南アルプス市野牛島の中島家での年末の餅つき大会は、メンバーの多くが強い絆で結ばれる場となり、強固な団結心のきっかけになっていたと茅野メンは明かしてくれました。

甲府21 ワイズメンズクラブはチャーターメンバーに新メンバーを加えて、互いの成長を願うクラブとして運営出来る足掛かりを故・中島竹男さんから与えられました。感謝です。



故・中島竹男さん記念会の様子
2017年8月7日＝甲府市・山梨YMCA青少年センター

YMCA便り この夏を振り返って

山梨YMCA総主事 露木淳司



今年の夏は、わいわい地球塾20本にキャンプ6本のプログラムを用意して、子ども達を迎え、海へ山へ街へと繰り出しました。キャンセル待ちのプログラム続出で、概ね定員通り集まりました。

わいわい地球塾の一番人気「キッザニアに行こう」は、追加企画を含めて6回実施しました。参加総数約500名のうち120名がこのプログラムの参加者となりました。

昨年の夏から実施していますが、キッザニアオンリーのリピーターだった子も、何度か来ているうちにYMCAのファンになって他のプログラムに参加してくれるようになりました。ファンが増えて本来のYMCAの願いが広がっていけば、こんなにうれしいことはありません。

また、この夏の学童保育では、夏だけ参加する子が増加し、一時登録者数が100名を超えました。

さらに、この春立ち上げた「きらきら教室」（発達障がい児のための児童デイサービス）も順調に利用者が増えてきて毎日5～7名が滞在するようになりました。個性豊かな子供たちとハートフルなスタッフたちの熱気あふれる夏のYMCAでした。

そして、今年もそれぞれのワイズメン、メネットの皆様が大変お世話になりました。「フクロウキャンプ」には甲府クラブ、甲府21クラブ、富士五湖クラブの皆様から様々なご支援をいただきました。甲府21クラブの廣瀬健・まさみ夫妻は「もとすこアドベンチャーキャンプ」でインストラクターとして、富士五湖クラブの望月勉・喜代子夫妻は「富士山がんがんキャンプ」の宿泊地、標高3400m、本八合目のトモエ館の支配人夫妻として、共にカラダを張ってご奉仕いただきました。

皆様に支えられて、無事怪我も事故もなくこの夏を乗り切れたことを心より感謝申し上げます。

■今後の予定

10月3日（火） 第1例会 会場係：TOF
10月17日（火） 第2例会 会場係：TOF